

苺の定植後の管理について (NO1)

R3.9

アグリ技研 (株)

1. 活着・発根促進対策について

「定植後 30 日前後で根の環境も決まります」

「定植後の灌水は、株元を中心に少量多回数を行きましょう」

①定植後の発根促進効果に灌水処理の場合（灌水チューブ使用）

◎アミクエ 5～10 k/10a を 5 日置きに灌水処理

②手灌水の場合は、株元や根鉢灌水処理

◎アミクエ 500 倍を 5～7 日置きに灌注処理

2. 2 果房分化促進対策（10 月上旬～中旬）

①定植後芯葉 2.5 枚展開後～

◎P・K ゴー2000 倍で葉面散布（3～5 日毎）に 3 回前後散布

②株冷、夜冷苗の徒長防止対策

◎P・K ゴー1500～2000 倍で葉面散布（状況に応じた処理回数）

*2 果房の花芽分化促進のポイントは

① 被覆資材での日中下温と日長対策（日中の温度を下げて分化促進）

②灌水量の調整（やや乾燥） ③PK 肥料の調整（N のコントロール）

3. 2 果房分化確認後の追肥「全品種」（10 月中旬～）

①液肥の場合は

◎アミクエ 5 k にウルル 7 号 10 k/10a を灌水処理

②果房の充実・根張り強化維持対策

◎カウボン 1 袋/10a（マルチ前処理）

③マルチ前の追肥には、味太郎 3 袋/10a 施肥

◎有機肥料の為に、キノコバエ多くなる場合もあります。（粘着トラップ）